

## 7 体験的な学習の進め方

これからの教育においては、知識基盤社会化やグローバル化が進む変化の激しい社会に生きる児童生徒が、自ら課題を見付け、自ら学び、考え、主体的に判断したり、表現したり、他と協力するなど、よりよく問題を解決することができる資質・能力や自己効力感等を育成する必要がある。また、生涯にわたる学習の基礎を培うという視点からも、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、それらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等の育成を重視した教育を行うことが必要であり、児童生徒がこれらを支える知的好奇心や探究心をもって主体的に学習に取り組む態度を養うことは極めて重要である。このような資質や能力を育成するためには、**体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を充実する必要がある。**

なお、平成29年告示の小・中学校学習指導要領においては、第1章総則第3の1「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の中で、

- (4) 児童(生徒)が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。
- (5) 児童(生徒)が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。
- (6) 児童(生徒)が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

と示されており、児童生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるようにすることを重視し、**教科等の特質に応じた体験を伴う学習活動の充実を図ること**とされている。

### (1) 体験的な学習の意義

- ア 抽象的な問題や課題を具体化し、解決の過程や結果を体感的に理解させることができる。
- イ 学習意欲をもたせ、学ぶことの楽しさや成就感を体得させることができる。
- ウ 自分で課題を見付け、自分なりの思考力、判断力を働かせながら解決したり、追究したりすることで、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせることができる。
- エ 各教科等において習得すべき知識や技能が、その後の学習や生活において生かされ、総合的に働くようになる。
- オ 集団生活への適応、自然との触れ合い、奉仕や勤労の精神などを涵養することができる。

### (2) 体験的な活動を取り入れた学習のポイント

- ア 児童生徒の多様な考えや発想を生かすとともに、これまでの学習で得られた基礎的・基本的な知識・技能の活用が図られるようにする。
- イ 観察・実験、調査、見学、創作、課題研究などの活動を重視する。
- ウ 課題解決に向けた様々な活動を十分楽しむことができるようにする。
- エ 感覚や身体などを使った活動を取り入れ、直面する困難等を自ら克服させ、やり遂げた喜びを共に味わうことができるようにする。

### (3) 体験的な学習を進める上での留意点

- ア 指導内容の精選を図るとともに、教材、指導時数、指導形態等を工夫し、目標に到達できる活動を取り上げる。
- イ 学校教育全体を通じて、体験的な学習が実践されるように、指導計画に位置付ける。
- ウ 体験的な学習が行える学習環境を整備する。
- エ 学校教育だけでなく、家庭や地域社会の中での豊かな生活体験、自然体験、社会体験を有効に生かすことができるように配慮する。

### (4) 体験的な学習についての配慮事項

- ア 表面的な気付きで終わらせないよう、児童生徒なりの問いや問題意識をもたせておく。
- イ 体験後の「振り返り」や「まとめ」の活動(例：表現活動や言語活動など)を充実する。
- ウ 一人一人の児童生徒の個人的な体験を共有化したり、互いのよさを認め合ったりするために、共通理解したり、互いに話し合い、吟味し合ったりする場を設定する。
- エ 体験的な学習を展開するに当たっては、学習の内容と児童生徒の発達の段階に応じた安全への配慮を十分に行う。